

臨床研究「頭頸部再建における発症時期からみた動脈トラブルの予防と対処」について

筑波大学附属病院形成外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

マイクロサージャリーを用いた遊離組織移植術は有用な手技であり、現在多くの施設で行われています。しかし、それを安全に行うためには熟練した技術と様々な配慮が必要であり、経験が少ない術者は術後数日間を不安な思いで過ごすこととなります。経験が多い者と少ない者の差はトラブル想定力から対応力まで大きな差があり、その差は『経験』と『手技』によって語られることが多くエビデンスとして示しにくいものです。そこで本論文では『経験』と『手技』をエビデンスとするために、血栓の発生時期と血栓の性状の2つに着目し、当科の頭頸部再建症例群からマイクロサージャリーにおける動脈血栓の発症時期の傾向と血栓性状から要因を検討し、経験の少ない者でも最終的に動脈血栓の予防と対処について十分に対応できるエビデンスを構築することを目的としています。

② 研究対象者

2008年1月から2022年1月に 頭頸部再建手術を受けた患者さん

③ 研究期間

倫理委員会承認後～2022年4月30日まで。

④ 研究の方法

患者さんの診療録、臨床写真を用いて⑤の項目について後ろ向きに調査し、収集した情報の解析を行い、1) 動脈血栓の発症時期と血栓性状の傾向 2) 血栓発生時期を意識した術後管理の効果を明らかにします。新たに追加検査を行うことはありません。なお、診療情報はすべて個人が特定できないように匿名化します。

⑤ 試料・情報の項目

年齢、性別、使用皮弁、再建部位、吻合血管の種類、吻合血管の本数、インドシアニンググリーン蛍光造影、初回手術時に血栓の生じた症例数（動脈/静脈、術中/術後）、血栓の発生数と発症時期（動脈/静脈）、血栓の性状（動脈/静脈）、血栓発生後の対処と皮弁予後、術後動脈血栓の救済率、皮弁の生着率などについて調査します。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について
提供しません。

⑦ 試料情報の管理について責任を有する者
筑波大学 形成外科 講師 佐々木薫

⑧ 本研究への参加を希望されない場合
患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院 305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：形成外科 担当 佐々木薫

電話・FAX：029-895-3122

対応可能時間：平日 9～16 時